

令和2年度

清水町議会

清水高校生模擬議会会議録



令和2年10月6日（火）

令和2年度 清水町議会清水高校生模擬議会会議録目次

(令和2年10月6日)

清水町議会清水高校生模擬議会日程表	1
出席議員	2
出席説明員	2
協力	2
事務局	2
修礼	3
議員の動静報告	3
議長挨拶	3
議会運営委員会委員長の報告	3
町長挨拶	4
開会宣言	5
開議宣言	5
議事日程の報告	5
日程第1 議席の指定について	5
日程第2 会議録署名議員の指名について	5
日程第3 会期決定について	5
日程第4 一般質問	5
・若者が集まる町にするために必要な施策について	
1番 五十嵐唯翔 議員	5
2番 小野翔生弥 議員	8
3番 鈴木 良明 議員	10
・子育て世帯が喜ぶ町にするために必要な施策について	
4番 大山 凌芽 議員	11
5番 久保埜晶瑛 議員	12
6番 茶木 優汰 議員	13
・清水町をPRするイベントについて	
7番 沼田 陸 議員	14
8番 若原 颯汰 議員	16
9番 工藤 奨摩 議員	18
・駅前の活性化について	
10番 齊藤 皓大 議員	19
12番 根本 怜汰 議員	21
11番 神谷 翼 議員	21
閉議	23
副議長挨拶	23
講評	24
生徒代表挨拶	27
閉会	27
修礼	27

令和2年度 清水町議会清水高校生模擬議会日程表

令和2年10月6日(火)

時 間	項 目	要旨・発言者等
13:30	修礼	
13:30	議員の動静報告	
13:31	議長挨拶	
13:32	議会運営委員会委員長の報告	
13:36	町長挨拶	
13:39	開会宣言	
13:39	開議宣言	
13:39	議事日程の報告	
13:40	日程第1 議席の指定について	
13:40	日程第2 会議録署名議員の指名について	
13:41	日程第3 会期決定について	
13:41	日程第4 一般質問	若者が集まる町にするために必要な施策について (1番 五十嵐唯翔、2番 小野翔生弥、 3番 鈴木良明) 子育て世帯が喜ぶ町にするために必要な施策について (4番 大山凌芽、5番 久保埜晶瑛、 6番 茶木優汰) 清水町をPRするイベントについて (7番 沼田 陸、8番 若原颯汰、 9番 工藤奨摩) 駅前の活性化について (10番 齊藤皓大、11番 神谷 翼、 12番 根本怜汰)
休憩 (14:23)		
再開 (14:35)		
15:19	閉議	
15:19	副議長挨拶	
15:21	講評	
15:36	生徒代表挨拶	
15:37	閉会	
15:37	修礼	
	記念写真撮影	

出席議員（12名）

1番	五十嵐唯翔	議員	7番	沼田 陸	議員
2番	小野翔生弥	議員	8番	若原颯汰	議員
3番	鈴木良明	議員	9番	工藤奨摩	議員
4番	大山凌芽	議員	10番	齊藤皓大	議員
5番	久保埜晶瑛	議員	11番	神谷 翼	議員
6番	茶木優汰	議員	12番	根本怜汰	議員

出席説明員

町長	阿部 一 男	農林課参事	水野 秀 明
副町長	山本 司	商工観光課長	高橋 英 二
総務課長	神谷 昌彦	建設課長	内澤 悟
総務課参事	竹中 直也	水道課長	小林 進
企画課長	前田 真	御影支所長	石津 博 徳
税務課長	小岩 哲治	教育長	三澤 吏佐子
町民生活課長	斉木 良博	学校教育課長	大尾 智
保健福祉課長	佐藤 秀美	社会教育課長	藤田 哲也
子育て支援課長	逢坂 登	社会教育課参事	佐々木 亘
農林課長	寺岡 治彦		

協力

北海道清水高等学校

校長	吉村 教賢 様	教諭	小林 哲也 様
教頭	道添 昌規 様		

事務局

議会事務局長	田本 尚彦	議会事務局総務係長	鴫田 瑞恵
議会事務局次長	宇都宮 学		

<修 礼>

○事務局長（田本尚彦） ご起立願います。礼。ご着席願います。

<議員の動静報告>

○事務局長（田本尚彦） 議員の動静について報告致します。本日の模擬議会に出席の議員は、清水高校3年生の五十嵐(いがらし) 唯翔(ゆいと) さん、小野(おの) 翔生(とおよ) さん、鈴木(すずき) 良明(りょうめい) さん、大山(おおやま) 凌芽(りょうが) さん、久保埜(くぼの) 晶瑛(しょうえい) さん、茶木(ちゃき) 優汰(ゆうた) さん、沼田(ぬまた) 陸(りく) さん、若原(わかはら) 颯汰(そうた) さん、工藤(くどう) 奨摩(しょうま) さん、齊藤(さいとう) 皓大(こうだい) さん、神谷(かみや) 翼(つばさ) さん、根本(ねもと) 怜汰(れんた) さんの12名、全員出席であります。

本日の模擬議会は、清水町議会櫻井議長が議長を務めます。

<議長挨拶>

○議長（櫻井崇裕） 会議に入る前に一言ご挨拶申し上げます。本日は、吉村校長先生をはじめ、清水高等学校関係者ご出席のもと、また、阿部町長はじめ町執行側のご協力を頂き、この模擬議会が開催される運びとなりました。町議会では議会活性化の取り組みとして、昨年からの模擬議会の開催について高校と協議をさせていただき、色々ご準備をいただいてこのように開催できる事を改めて関係者の皆様に一言お礼を申し上げる次第であります。本日はよろしくお願ひいたします。

<議会運営委員会委員長の報告>

○議長（櫻井崇裕） ここで、模擬議会の開催について、議会運営委員会委員長より報告があります。

議会運営委員会委員長 鈴木孝寿 議員

○議会運営委員会委員長（鈴木孝寿） 議会運営委員会より報告を申し上げます。模擬議会の開会に当たり、開催までの経緯と共に本会議の運営について報告いたします。

模擬議会は、議会活性化特別委員会が平成30年12月4日に提出した調査報告の中で、町民の声を聴取する場の設定として示されました。

議会では清水高等学校の協力を頂いて開催が出来ないか、令和元年5月から協議をさせていただきました。令和2年度に入り、高校から3年次総合的な学習の時間の地域研究についての学習の中で、模擬議会で一般質問を行う計画をまとめていただき、執行側のご理解とご協力の下、本日の開催となりました。

高校生の皆さんは、6月から地域の実態調査とまちづくり案の作成と共に、8月18日と9月29日には議会議員が高校にお伺いして共に学習し、本日の一般質問に臨んでいます。

本日の模擬議会では、皆さんからの質問に対して、阿部町長以下、副町長、教育長をはじめ、町の課長職の方々に、本番の議会同様の答弁をしていただきます。

模擬議会議員の皆さんには議席に座り、本番さながらの体験をしていただきます。私たち議員は皆さんの後ろに座り、一般質問のやり取りを傍聴させていただきます。

本日の模擬議会は全体で2時間を予定しています。4項目の一般質問について限られた時間の中で、皆さんが感じたまちの課題や、地域の将来にとって必要な施策につ

いての考えをしっかりと伝え、明確な将来像に繋がる答弁を引き出すよう取り組んでください。

なお、議場における新型コロナウイルス感染症の予防及び拡大防止のための対策として、議場の扉を開放して会議を行います。会議中はマスクを着用することとし、発言の際もマスクを着用したまま発言するようお願いいたします。

最後に、一般質問の方法につきまして、お願いを申し上げます。

一般質問では、質問の回数制限はなく、今日の模擬議会では1項目について、答弁時間も含めおよそ20分以内とします。ただし、初回は質問台に立ち、質問事項の全部を一括して述べ、再質問からは議席で一問一答とします。

会議において発言をしようとするときには、挙手して議長と呼び、議長の許可を求めなければなりません。

議長の許可を得た後、議席で発言することができます。

皆様にできるだけ分かりやすい議会運営にするためにも、質問、答弁の際にはマイクに向かい、大きな声で、簡潔明瞭に発言されますよう皆様のご協力を特にお願いいたします。以上、議会運営委員会の報告とさせていただきます。

○議長（櫻井崇裕） 議会運営委員長から報告がありましたが、報告のとおり進めることにご異議ありませんか。

（異議なしの声）

○議長（櫻井崇裕） 異議なしと認め、委員長の報告のとおり進めることに決定しました。

＜町長挨拶＞

○議長（櫻井崇裕） 開会前に、町長から模擬議会開催に当たりご挨拶をいただきます。

町長

○町長（阿部一男） 今紹介のありました清水町長の阿部でございます。本日よろしくお願ひいたします。ちょっとお話しする前に、今日の新聞で皆さんパン甲子園で3連覇したという記事が載っております、大変嬉しく思ったところでございます。皆さんも生産技術系列の中にはいらっしゃる方はいっぱい居るのではないかと思いますけれども、本当におめでとうでございます。そしてまた先日は、文化センターでそのパンの販売をしてもらったときに、私ぎりぎりですぐ買える事ができて大変おいしくいただきました。本当にすばらしいなと思います。

皆さん緊張していますか？私も緊張しています。今日は特に校長先生が前におられるし、特に緊張していると思いますけれども、私もいつもの議会と違った形で緊張感を覚えているところでございます。そして本日、模擬議会というのは多分、はっきりとは分からないのですけれども、清水町の中ではあまり過去にやった事がないようです。中学生・高校生含めてあまりやった事がないようですけれども、初めてのことだと思います。皆さんもおそらく緊張していると思いますけれども、私も先程言いましたように少し緊張感を覚えながら、でも、ちょっと若者の皆さんの意見なので、ちょっとわくわくした感じも覚えているところでございます。

既に質問の通告をもらっているところでありましてけれども、皆さんの提案だとか、ご意見にしっかりと職員みな一丸となってしっかりと答えて行きたいと思っている

ところでございます。そして、その後も今日2時間の予定をしているようですが、皆さんと一問一答も含めた中で活発な議論が展開できて、いいふうに展開できればなという思いを持っているところでございまして、その辺も含めて、今日2時間どうぞよろしく願いをいたします。終わります。

<開会宣言>

○議長（櫻井崇裕） ただ今の出席議員は12名です。これより模擬議会を開会します。

<開議宣言>

○議長（櫻井崇裕） これから、本日の会議を開きます。

<議事日程の報告>

○議長（櫻井崇裕） 本日の議事日程につきましては、お手元に配布のとおりであります。

<日程第1 議席の指定について>

○議長（櫻井崇裕） 日程第1、議席の指定を行います。
議席は、ただ今各議員着席のとおり指定いたします。

<日程第2 会議録署名議員の指名について>

○議長（櫻井崇裕） 日程第2、会議録署名議員の指名を行います。
会議録署名議員は、会議規則第126条の規定により、議長において
3番 鈴木良明議員、8番 若原颯汰議員、11番 神谷翼議員 を指名します。

<日程第3 会期決定について>

○議長（櫻井崇裕） 日程第3、会期決定についてを議題とします。
おはかりします。本模擬議会の会期は、本日1日にしたいと思えます。
これにご異議ありませんか。
(異議なしと呼ぶ者あり)
異議なしと認めます。会期は本日1日と決定しました。

○議長（櫻井崇裕） 一般質問に入る前に、あらかじめ申し上げます。
最初の質問は、通告の全項目について、一括して質問していただき、再質問がある場合は、一問一答方式になりますので、よろしく願いいたします。
また、質問・答弁にあたっては、わかりやすく、簡潔に行われるよう特にお願いたします。

<日程第4 一般質問>

○議長（櫻井崇裕） 日程第4、一般質問を行います。
順番に発言を許します。 1番 五十嵐唯翔 議員
○1番（五十嵐唯翔） 1番、五十嵐唯翔であります。 若者が集まる町にするため

に必要な施策についてです。

私たちは清水町を魅力のある町にしたいと考えています。現在清水町にはショッピングセンターやテーマパークなど若者が集まる施設はありません。町を活性化させ地域を盛り上げる為には若者の力が必要です。そこで私たちはスケートボードパークを作ることを提案します。

東京オリンピックの正式種目になったスケートボードが今注目を集めています。北海道では野外パークだと冬に乗れない時期があり、室内パークは道内に2か所しかなく、規模も小さいのが現状です。プロの選手の要望も聞き、国内最大級のパークをこの清水町に作ってはどうかと考えています。全国唯一のスケートボードの町として広めていきたいと考えています。このパークによる経済効果は多くあると思います。

9月14日の定例会でお話されていた清水町体育館の改修において、このスケートボードパークを併設することで、新しく建て替えるだけではなく、この町の中心になるものができると考えています。

1点目、若者が集まる町にするためにはどんな施設が必要だと考えていますか。

2点目、現在行っている若者を集める活動を町として何かしていますか。していればその結果はどうですか。

3点目、清水町総合体育館にスケートボードパークを併設してはどうですか。

4点目、スケートボードのプロ選手を町職員として雇用してはどうですか。

以上4点についてお伺いします。ご答弁よろしくお願ひします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 町長。

○町長（阿部一男） それでは私の方から、今の五十嵐唯翔議員の質問にお答えをしたいと思います。1点目、2点目は私町長の方から。3点目4点目は教育長の方から答弁をしたいと思いますのでよろしくお願い致します。ちょっと1点目2点目少し長くなりますけれども、しっかりと答弁しますので聞いていただきたいと思います。まず、1点目の、若者が集まる町にするためには、どんな施設が必要だと考えますかについての答弁でございます。

若者が集まるには、若者にとって楽しい施設、居心地の良い施設等、魅力のある施設が必要であると考えているところであります。

ご指摘のあったスケートボード施設や、映画館やテーマパークの娯楽施設、おしゃれなカフェやおいしいレストランなどもそれに含まれるのではないかと思います。

更に、若者が集まるという視点を時間軸で考えた場合に、観光施設に代表されるように短期的に集まる交流人口の増加を目指す施策、更に、長期的に清水町に住み続けるという定住人口の増加を目指す施策等、様々な観点から施設整備を考える必要があるのではないかと考えております。

かつて、清水町も観光資源として様々な施設を整備してまいりましたが、時代によって若者のニーズも変化します。それらを総合的に判断し、更に、清水町の歴史、風土、文化等を勘案しながら、若者にとって今、最も必要な施設を考える必要があります。

2点目、現在行っている若者を集める活動を町として何かしているかについて、お答えをいたします。



先ほどの答弁とも重なりますが、清水町には歴史、風土、文化を勘案し、北海道の町村で初となるアイスアリーナを整備し、アイスホッケーの町として多くの人が集まる環境を整え、特色のある町づくりを進めてきた経緯があります。五十嵐君良く知っていますよね。

他にも、春には桜がとてもきれいな、パークゴルフ場や屋外バーベキュー施設を有し、十勝管内には珍しいボートが楽しめる清水公園や、雄大な十勝平野を一望することができる日勝展望台、円山展望台、美蔓パノラマパークを有する他、民間企業として十勝千年の森が存在するなど、若者をはじめたくさんの人に楽しんでいただける施設整備や集客に力を入れてきました。

近年では、清水町の特色を生かしたイベント開催にも力を入れ、十勝清水肉・井まつりでは、全道、全国でも人気の牛トロ井や牛玉ステーキ井、豚井などを提供している他、春には十勝若牛アスパラまつり、秋には十勝清水にんにく肉まつり。今ちょうど2回目のところを開催しているところがございます。と、十勝のみならず、全道、全国からたくさんの方が訪れる町でもあります。

また、あわせて、若者が住み続けることができるよう、若い世代の経済的安定と様々な支援を実施しております。

子育てしやすい環境を目指し、出産祝い金制度や保育料無料化、医療費無料化、子育て世帯、新婚世帯の住宅取得や住宅借り上げ等、様々な助成制度がある他、将来的に清水町に定住する方には返済を免除する奨学金制度を整備するなど、全国でもトップクラスの、こういう面では行政サービスを実施しております。

さらに、若者の政策として、清水ミライ若者会議を開催し、大人の視点ではなく、子どもたちが自分ごととして、町の未来を考える授業やフォーラムなどを開催しているところです。

清水町の、35歳未満の人口は、8月末現在で2550人です。10年前の平成22年の8月末は、3093人でありましたので543人もの減少があります。減少率は、21%を超えます。全人口に占める35歳未満の割合を比較しても、30.1%から27.3%と2.8ポイントの減少となっており、本町は人口減少、少子化が進んでいる状況です。参考でありますけれども、スケードボードを楽しむであろう10歳から34歳までの人口は、今年の8月末現在1,955人であり、10年前から372人の減少となっております。

数値から判断すると、様々な施策、施設整備を手がけてまいりましたが、若者の定住人口の増加には至っていないのが現状です。若者の人数の減少は、清水町に限らず、ほとんどの過疎市町村にみられる現象で、人口減少、少子化対策は、本町の最重点課題でもあります。

今後におきましては、定住人口の減少による社会経済活動量の低下を、清水町に短期的に訪れる交流人口、あるいは、清水町になんらかの形で関わりを持つ関係人口を増やすことによってカバーしていくことも必要と考えているところでもあります。以上私から2点についての答弁とさせていただきます。

○議長（櫻井崇裕） 次の答弁を求めます。教育長。

○教育長（三澤吏佐子） では、私からは、大項目の1、小項目の3と4につきましてお答えをさせていただきます。

若者が集まる町にするために必要な施策についての3点目、清水町総合体育館にス

ケートボードパークを併設してはどうかとの質問についてお答えをいたします。

先ほどの町長からの答弁にも重なりますが、清水町においては北海道の町村で初となるアイスアリーナを整備し、現在、アイスホッケーの町として多くの方々に利用いただいております。アイスアリーナは、スポーツの振興だけではなく、各種大会や合宿等をとおして、町全体の活性化に寄与しております。

今後、建設が予定されている体育館においても、スポーツをする場所としてだけではなく、集客や健康増進など様々な目的が複合的に達成されるよう、これからたくさんの町民の方と意見交換をする予定であります。今回ご提案のあったスケートボードパークの併設については、まず、国内競技人口の動向や事業費見込等を調査したいと考えます。

次に4点目のスケートボードのプロ選手の町職員雇用についてですが、今後、スケートボードパークが実現し、競技人口が一定程度確保できる見込みができた際には、施設の管理、競技指導を含めて考える必要があります。

スケートボードに限らず、清水町にはスポーツを楽しんでいる町民がたくさんいます。アイスホッケーやサッカー、野球、バスケットなど、本町にはたくさんの体育団体や少年団があり、それぞれの分野において町民が中心となって、競技指導や普及活動をしております。

スケートボードにおいても、現在の状況では、それだけに特化した常勤職員を雇用するのは難しいと考えますが、講師としての招聘や、シーズン毎の契約により競技指導や普及活動をすすめ、状況をみながら、雇用を考える必要があります。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 2番 小野翔生弥 議員

○2番（小野翔生弥） 2番、小野翔生弥です。1点目の若者にとって必要な施設なのかということについて再質問を行います。

答弁の中で時代によって若者のニーズも変化するというのですが、現時点で、スケートボードパークは、若者にとって必要な施設とは考えていない、ということなのですか？ご答弁よろしく願います。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（前田真） 企画課長の前田です。よろしく願います。



答弁の内容が長くて分かりにくかったとしたらごめんなさい。あの、全くそのような意味ではなくて、スケートボードパークのお話は貴重なご意見として賜りたいと思っております。先程の町長の答弁とも重なりますが、時代の変化やそれに伴う住民のニーズによって町の施設というのは少しずつ変化しております。オリンピックの種目に採用されるということももちろんですけども、例えば皆さんたちの中で、例えばスケートボードの部活が出来たり、あるいは町民の中にそういった団体が出来たり、町の中で盛り上がりを見せたときに継続的にそういったニーズがあるということが判断できたら、もちろん前向きにそういったことを考えていかなければいけないと思っております。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 2番 小野翔生弥 議員

○2番（小野翔生弥） 2番、小野翔生弥です。2点目の清水町の若者を集める活動

について再質問を行います。

アイスアリーナや清水公園、日勝展望台、十勝先年の森があるとの答弁でしたが、これらの施設には若者、例えば35歳未満の人がどれくらい来ているのか把握しているのでしょうか。ご答弁よろしく申し上げます。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（前田真） アイスアリーナや公園など施設の管理がですね、複数の課に渡っておりますので、企画課長の私がまとめて答弁をさせていただきます。

まず、35歳以下の若者に限っての人数把握というのはしていないということをご理解ください。ちなみに数字が少し並ぶので、ゆっくりめにお話をさせていただきますが、アイスアリーナに関してはアイスホッケーをされる利用者が年間に28,741人居ます。大会等でそれを観覧する方が、16,573人います。合計で45,314人の方がアイスアリーナを利用しているようです。この中にですね、先程質問のあった若者の人数把握というのにも少し関係があるかもしれませんが、アイスホッケーの施設を利用した合宿というのがございます。合宿の利用が延べ22,352人おりますので、この合宿の利用者は若者であるということ把握しております。

更に、他の施設、清水公園に関しましては、昨年度のデータですが把握しているだけでボートの利用者が4,888人と、あとはイベントも実施しましてそちらに2,000人、合わせて6,888人の利用者が居るという事を把握しております。他にもですね、町内で日々利用している町民がたくさん居るものと思います。

日勝展望台においては数値の定点観測というのはしていないのが現状ですが、近隣にあるドライブインの利用者を把握しております。日勝展望台の近くにあるドライブインの利用者が、105,000人いらっしゃるようです。あともう一つ、民間の施設なのですが、千年の森の入場者を39,101名という事でお聞きしていることとございます。

それ以外にも先程町長から答弁があったように、清水町にはアスパラまつりや肉・井まつりなどのイベントがたくさんございます。そのイベントの入り込み客数が約27,500人ということ把握しております。清水町における、今説明した観光入り込み客数というのを対外的には178,489人と試算しているところでございます。以上です。

○議長（櫻井崇裕） 次の質問を受けます。 2番 小野翔生弥 議員

○2番（小野翔生弥） 2番、小野翔生弥です。同じく2点目の清水町の若者を集める活動について再質問を行います。

アイスアリーナ、清水公園、日勝展望台、十勝千年の森などの施設について、経済的な効果はどれくらいありますか。ご答弁よろしく申し上げます。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（前田真） 経済効果って非常に難しいのですが、先程説明した施設の利用人数や観光入り込み客数に、一人当たり消費するであろう金額を掛け算すると経済効果というのは出てくると思います。あくまでもこれは分かりやすく試算したもので、複雑に入り組んだものはまた別として、例えばなんですけど、アイスアリーナの利用者が一人2,000円だと仮定します。これは使用料を500円頂いているということや、おそらくジュースだったり、おやつだったりという事も含めて一人2,000円と仮定させていただきました。それから観覧者については一人1,000円

と仮定してみました。更に合宿に関しては宿泊や飲食が伴うので、一人につき10,000円という数字を仮定としておきました。で、先程説明した人数に今言った単価を掛け算しますと、アイスアリーナに関しては92,871,000円の経済効果があるということが算出できると思います。

後もう一つ観光に関しては、こちらは観光消費動向調査というのがあります。これは役所の統計データなんですけど、その中で、北海道における日帰り旅行というのは、これもまた幅がありまして、一人4,000円から22,000円使うということが言われています。ただ、これは公共交通機関ですとかJRですとか、バスですとか、そういったものだったり、あるいはガソリン代だったりが含まれているもので、もし、町内に限った経済効果という事であれば、例えば一人当たり観光客が3,000円使うと仮定すると先程述べた178,000人というものに掛け算しまして約5億3千5百万円から7億1千3百万円くらいの経済効果があるんじゃないのかなという事を報告させていただきたいと思います。

○議長（櫻井崇裕） 次の質問を受けます。 3番 鈴木良明 議員

○3番（鈴木良明） 3番、鈴木良明です。小項目3について再質問を行います。

自分たちが調べた中では、新潟県の村上市にあるスケートパークでは、半年で1万3千人の若者が来場しました。東京オリンピックの種目にもなるなど、今、若者を中心にスケートボードを楽しむ人が増えています。体育館の改修の際に、大規模な屋内スケートボードパークを併設することで、道内の多くの若者の来場が見込めると思います。来町することでの飲食などの、その経済的効果も期待できます。北海道、特に十勝ではスケートボードパークはなく、若者が気軽に楽しめるスケートボードパークは清水町に多くの若者を呼ぶことができる必要な施設と思っておりますが、必要な施設として考えることはできませんかお伺いします。ご答弁よろしくをお願いします。



○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 社会教育課参事。

○社会教育課参事（佐々木亘） 社会教育課参事の佐々木といたします。よろしくお願いたします。

ただ今の質問、先程来からの答弁と若干かぶる部分があるかと思いますが、ご了承いただきたいと思います。

まず、体育館の建設につきましては、このあとたくさんの町民の方々と意見交換などを行い、建設に向けての準備を進めていくところでございます。スケートボードパークの併設につきましては、今回初めてご提案を受けたところでございます。先程東京オリンピックの種目にもなり、若者を中心にスケートボードを楽しむ人が増えていると議員の方からもお話がございました。その競技人口の動向やニーズを調査し、施設の将来的な利用価値など施設の必要性については、今後慎重に検討していかねばいけないかなというふうに考えているところでございます。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 3番 鈴木良明 議員

○3番（鈴木良明） 3番、鈴木良明です。小項目4について再質問を行います。

プロ選手を職員として雇用することで、若者が来場することになり、指導も受けられるとなると、その効果は大きいと思いますが、これらもメリットは考えられません

か。ご答弁よろしく申し上げます。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 社会教育課参事。

○社会教育課参事（佐々木亘） プロ選手を職員として雇用した場合、確かに有名選手ですとか人気がある選手であれば、いろんな形で若い方に限らず多くの方が町に訪れる事になろうかと思えます。そういった際には交流人口、関係人口の拡大ですとか経済効果、そういったメリットがあると私は考えているところでございます。プロ選手の雇用につきましては、先程来のスケートボードパークの建設、これに繋がってるところがありますので、その中で十分検討して参りたいというふうに思います。以上です。

◇・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◇

○議長（櫻井崇裕） 次に 4番 大山凌芽 議員

○4番（大山凌芽） 4番 大山凌芽であります。よろしく申し上げます。

子育て世帯が喜ぶ町にするために必要な施策について、質問します。

私たちは清水町をもっと活気のある町にしたいと考えており、そのためには人口を増加させることが不可欠です。人口の増加には自然増加と社会増加があり、そのどちらも考えなければいけません。また、社会増加のためにも若者が安心して過ごすことができる町でなければいけません。そこで子育て世帯が喜ぶ屋内遊技場の設置について以下の通り伺います。



一つ、子育て世帯の困っていることを調査しているか、伺います。

二つ、子育て世帯のサポートとして最も大切なことは何であると考えているか、伺います。

三つ、子ども福祉に対して新たな施策は考えているか、伺います。

四つ、屋内遊技場の設置について考えがあるか、伺います。

以上です。ご答弁よろしく申し上げます。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 町長。

○町長（阿部一男） それでは私の方から、子育て関係に関する質問にお答えをさせていただきます。

1点目の子育て世帯が困っていることの調査をしているかのことでありますけれども、子育て世帯が困っていることを直接調査した訳ではありませんけれども、昨年、子育て世帯に対して、子育て全般の状況についてのアンケート調査を行ったところがあります。その中では、経済的なものや子どもの発達についてなど様々な悩みがあることが分かりました。

また、子育て支援センターや保育所、こども園、幼稚園などでは、日常的に子育ての相談に応じており、その中で様々な状況を把握をしております。乳幼児の健診の際や、町の保健師による乳児の家庭訪問の際にも相談に応じていますので、その中で状況を確認し、適切に支援できるように努めているところであります。

2項目目の子育て世帯のサポートの大切なことについてでありますけれども、子育て世帯のサポートは、経済的な支援も重要と考えていますが、社会や子育て環境の変化により、子育ての悩みも多様化しています。それぞれの悩みやニーズに寄り添いな

から対応していくことが必要であると考えております。

3項目目の新たな施策についてでありますけれども、清水町では、出産祝金をはじめ、保育所やこども園の第2子以降の保育料無償化や18歳までの医療費の助成、住宅取得の際の助成なども行っております。また、先ほども申し上げましたが、しっかりとした相談体制を整備するなど、子育て世帯に対しての支援策を講じているところでもありますので、今までの施策を継続した中で、新たな問題がある場合や新たなニーズがある場合など、その時々には十分な検討を行いながら進める必要があると考えているところであります。

4項目目であります。屋内遊技場の設置についての答えでありますけれども、遊技場には様々なものがありますので、今回は、幼児や小学生がボール遊びなどで体を動かしたり、本を読んだり、または友達とゆっくり過ごすことができるような施設のことと考えて答弁をさせていただきます。

まず、清水町内の幼児のうち3歳以上は、ほとんどが幼稚園や保育所、こども園に入園、入所していますし、在宅の幼児についても、子育て支援センターで行っている子育てひろばや幼児プレイ室の開放なども行っています。また、社会福祉協議会のつどいの場でも遊ぶことができるようになっておりますので、乳幼児については、ある程度の環境は整っているものと考えております。

小学生については、少年団活動等に参加するなどしている児童も多くいますが、学童クラブで過ごす児童も多くまっています。その他の児童については、屋内で遊ぶような場所は少ないと感じておりますので、今後、こういったものが必要なのか、今ある施設の利活用も含めた中でしっかりと考えていきたいと思っております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 5番 久保埜晶瑛 議員

○5番（久保埜晶瑛） 5番 久保埜晶瑛です。小項目1について再質問を行います。

アンケート調査を行い、また日常的に相談に応じているとのことですが、その中で多く出されている困り事はなに出されていますか。ご答弁よろしくをお願いします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 子育て支援課長。

○子育て支援課長（逢坂登） 子育て支援課の逢坂です。よろしくお願いいたします。



アンケート調査等行っております。また、日常的に子育て支援センターなどでも相談に応じています。アンケート調査などでは、やはり経済的なこと。先程町長申しましたけれども、経済的なことがやはり半数ぐらいの方が悩みと言うんですかね、そういった困りごとがあるよということを知っていますし、また、子育て支援センターの相談においては、やっぱり小さなお子さんですので、発達・成長の事ですか、友達との関係の事ですか、そういったことが多く見られるのかなというふうに感じております。以上です。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 5番 久保埜晶瑛 議員

○5番（久保埜晶瑛） 5番 久保埜晶瑛です。

それらに対して、どのような支援やサポートがありますか。ご答弁よろしくをお願いします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 子育て支援課長。

○子育て支援課長（逢坂登） 先程の困りごとに対してですけれども、やっぱり経済的なことが多いと言いました。その中ではやっぱり出産祝い金でありますとか、医療費の助成、そして住宅取得の際の補助金、助成なども行っているところでもあります。そしてまた、お子さんの発達や成長については、各専門の保育士ですとか、保健師そしてまた栄養士などが相談に応じているところです。以上です。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 5番 久保埜晶瑛 議員

○5番（久保埜晶瑛） 5番 久保埜晶瑛です。

小項目2について再質問を行います。

出産祝い金、保育料無償化、医療費の助成、住宅取得の際の助成などを行っているということですが、アンケートや相談で出されていた困りごとでしたか。出されていたら何件ぐらい出されておりましたか。ご答弁よろしくお願ひします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 子育て支援課長。

○子育て支援課長（逢坂登） 先程の答弁と若干かぶるところも有りますけれども、出産祝い金等のことです。やっぱりお金が掛かるということですかね。経済的な問題がありますということで、アンケートの件数ではないですけれども、複数回答ですので具体的な件数ではないですけれども、アンケート調査では約半数の方がそういった悩みがありますよというふうに答えを受けております。以上です。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 5番 久保埜晶瑛 議員

○5番（久保埜晶瑛） 5番 久保埜晶瑛です。

具体的なサポートは何か。またそのサポートの問題点は何かありますか。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 子育て支援課長。

○子育て支援課長（逢坂登） やはりあの、経済的なサポートという事であれば先程から何度か申し上げていますように出産祝い金だったり、医療費の助成だったりということもあるかなと思います。そしてまた、発達や成長の相談であればですね、各専門の職員が相談に応じてサポートしているという状況でありますので、特に大きな問題はないのかなというふうに考えています。以上です。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 6番 茶木優汰 議員

○6番（茶木優汰） 6番 茶木優汰です。3項目目について質問を行います。

核家族が多くなっている現状で、お年寄りの皆さんが育児を手伝う制度を新しく作るのはどうですか。ご答弁よろしくお願ひします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 子育て支援課長。

○子育て支援課長（逢坂登） お年寄りの皆さんということは、高齢者の方たちが育児を手伝うという制度をどうかという事ですけども、今実際にファミリーサポートという制度があります。これは高齢者に限った事ではないんですけれども、育児のお手伝いをしたい方、それから育児のお手伝いをしたい方を登録をして、その間を取り持って必要なときにサポートを受けられるという制度を用意していますので、それをまた更に充実させていきたいなというふうに考えています。以上です。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 4番 大山凌芽 議員

○4番（大山凌芽） 4番 大山凌芽であります。2項目目に子育て世帯のサポート



は大抵は母親にサポートがいつていると思いますが、逆に父親に対して何かサポートはしていますか。ご答弁よろしくお願ひします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 子育て支援課長。

○子育て支援課長（逢坂登） お父さん、父親に対してということですがけれども、まだ生まれる前から、ママパパ学級といつてお父さんお母さんが一緒に勉強する場を設けたり、子育て講演会をなるべくお父さんも出席しやすい土曜日や夜に開催するなどしています。ただ、お父さんの出席・参加はやはりちょっと少ない状況が見受けられます。この辺は問題点と考えていますので、今後更にそういったことを考えてまいりたいと思っています。以上です。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 6番 茶木優汰 議員

○6番（茶木優汰） 6番 茶木優汰です。4項目目についてです。

屋内で遊ぶ場所は少ないと感じているとのことですが、秩父別町にあるちっくるといふ屋内遊戯場は、秩父別町以外の町からも来られるほど人気があり、家族連れも利用しているとのことです。そのような遊戯場が清水町にもできることで、先程答弁された、経済的な支援や相談の対応などがあることで、清水町に住むきっかけにもなると思いますが、屋内遊戯場の設置についての前向きな考えはありませんか。ご答弁よろしくお願ひします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 町長。

○町長（阿部一男） はい、この部分は私の方から答えさせていただきます。秩父別町にちっくるといふ施設があるということのお話です。去年、清水町の人も何人か、このちっくるだけではないんですけども、観光も含めて秩父別町に視察に行つてすばらしい町だといふ報告も受けていますし、現に今何処も人口減少がいつぱいすごく進んでいる中で、秩父別はわずかに増加している。減少しないで増加しているといふ事はすごい事なんですけどもね。まあそんな事も含めて先程答弁したように、その小学校のちょっと少年団に入つていない人やなんかのところで少し考えていかなければならないところがありますねといふ答弁もしたんですけども、そんなのと合わせて私も機会があれば、ちょっとこのちっくるに興味がありますので、いつぱん見てきた中で、そんなことも含めて、本当にこう、やるという事ではなくて、新たなものを作るといふ事ではなくて、本当にこう、どんなのがあれば良いのかな。秩父別はこれに10億円かけてやったといふようなお話ですけども、そんな情報も入つてきますけれども、そんなことも含めていろいろな事の中で、皆さんからの意見を参考にしながら、そういうのも待つている人がいつぱい居るんだなということをしつかりと参考にしながら、私自身も色々と研究をしてみたいと思っていますので、その辺よろしくお願ひしたいと思っています。

○議長（櫻井崇裕） ここで休憩します。

（午後2時23分）

○議長（櫻井崇裕） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後2時35分）

◇・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◇

○議長（櫻井崇裕） 一般質問を続けます。 7番 沼田陸 議員

○7番（沼田陸） 清水町をPRするイベントについてです。

本町では、JA主催の祭りがいくつもあり、私たちも独自にJAに取材を行いました

た。その取材により、十勝若牛アスパラ祭りでは、回数を重ねる度に、来場者が増えていること。祭りの売り上げを、地元の地産地消の普及に使っているなど、様々な情報を得ました。このことから、祭りは清水町のPRに大きく貢献していることがわかります。このような祭りによって清水町産農作物に付加価値がつくことが期待され、農業所得向上が見込まれるでしょう。これにはJAだけでなく、清水町が一丸となってイベントをPRしていくことが大切だと考えます。



さらに、9月14日の定例会で山下清美議員が道の駅について質問していたが、1日限りのイベントでは来場者数に制限があるため、道の駅で特産品をPRする方がより大きな効果を生むと考えています。これらについて伺います。

1点目、町としてイベントのPRをどのような方法で行っているのか。またその効果を伺います。

2点目、イベントに来る来場者数を集計しているのか。していれば町民や町外からの来客の内訳等詳細を伺います。

3点目、道の駅について、イベントのノウハウを持つJA等と協力して運営したり、電気自動車用急速充電器とレストランを設置したりして集客するのはどうでしょうか。

4点目、町内外問わず、家族連れで道の駅を訪れてくれるような新たなイベントを検討してみてはどうでしょうか。以上です。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 町長。

○町長（阿部一男） それではただ今の質問にお答えをいたします。

まず、小項目の1点目のイベントのPRと効果についての答弁でございます。清水町で開催されるイベントについては、6月にJA十勝清水町主催の十勝若牛アスパラまつり、7月に商工会主催の清流まつり、そして、関係団体による実行委員会主催として、8月に十勝清水肉・井まつり、10月に十勝清水にんにく肉まつりを開催するなど、多くのイベントが行われています。

PRについては、ポスター掲示、チラシの配布、新聞の広告やイベント告知の記事や観光情報誌の掲載、ホームページやフェイスブックなどのSNSでの情報発信など、幅広く広告媒体を活用してPRを行っており、多くの来場者の集客に繋がっているところであります。

次に、小項目2のイベントに来る来場者の集計についてのお答えであります。イベントの来場者については、来場者についてそれぞれカウントしているわけではありません。会場の収容スペースに対する来場者の集客状況や来場車両の台数などを参考とし、おおよその来場者数として出しています。

また、来場者の地域の内訳については、駐車場の車両ナンバープレート、例えば帯広だとか、札幌だとか、それ以外の場合で確認をしているところでございます。

小項目3になります。道の駅については、先程もありましたように9月の定例会の一般質問で、清水町の状況にあった特色のある道づくりの在り方について調査、研究をすすめていきたいと私が答弁をしているところでございます。

道の駅は、地域とともに作る個性豊かなにぎわいの場として、24時間無料で利用できる駐車場やトイレの休憩機能、道路や地域の観光情報などを提供する情報発信

機能、文化教養施設、観光レクリエーション施設などの地域の連携機能の3つを持ち、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携の効果が期待をされているところでもあります。

地域振興に寄与するものとして、交流人口や経済波及効果の増加を目指し、地元の特産品や、農畜産品、飲食などを提供しております。

道内には128箇所、十勝管内には16箇所の道の駅があり、地元の特産品、農畜産品、飲食の提供など地域の特色を生かした運営がされているところでもあります。

道の駅の運営に関しては、当然、経済活動として成り立たせなければならないのでありますので、町、JA十勝清水町や観光協会、商工会など関係機関が協力連携をして知恵を出していく必要があると考えております。

また、清水町の強みである食を提供するレストランの設置や需要が増える電気自動車の充電施設の設置は、目的地として集客をするための手段として有効であると考えております。

小項目4の道の駅を訪れてくれるような新たなイベントの検討についてでありますけれども、清水町は、十勝清水牛玉ステーキ丼、牛とろ丼、豚丼をはじめ、にんにく、アスパラなどの特産品、チーズ、ヨーグルト、コンビーフ、ジャムなどの農産加工品など自慢できる優れた特産品が数多くあります。

道の駅が目的地として誰でも気軽に立ち寄りたくなるように、これらの資源を活かした、清水町の特色のある道の駅ならではのイベントの検討も含め調査研究を進めてまいりたいと思っております。以上、答弁とさせていただきます。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 8番 若原颯汰 議員

○8番（若原颯汰） 8番 若原颯汰です。小項目1について質問します。

SNSでの情報発信とありますが、実際にSNSを見てイベントに参加した人の集計はとっていますか。ご答弁よろしくお願ひします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） 商工観光課長の高橋です。よろしくお願ひします。

ご質問の内容ですが、SNSを見てイベントに参加した人の集計はとっていますかという事です。SNSは今非常に主流となっていて、重要な情報発信のツールだと思っております。まあ実際にお祭りに関して、イベントに関してSNSを見て集計はしていない状況です。でも、今後そういうことは必要というふうに考えますので、来場者の声を聞く事は大切だと思っております。例えばアンケートなど、そういう部分をとってやっていきたいというふうに考えております。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 8番 若原颯汰 議員

○8番（若原颯汰） 8番 若原颯汰です。小項目1について質問します。

ポスター掲示とありますが、私たちはポスターを見たことがありません。各小・中・高でポスターを掲示してはどうでしょうか。ご答弁よろしくお願ひします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） ポスターを見た事がないというお話です。いろんなお祭りがあって、ポスターは作成しているところです。ポスターの掲示場所としては町



の公共機関、例えば役場だとか文化センターだとか体育館だとか、そういうところ。あるいはスーパーだとかお店、金融機関だとか人が集まるところにポスターを掲示させていただいております。まあちょっと見た事がないという事で、ちょっと掲示の仕方もちょうと考えなきゃならないなど、いうことでも思っております。小・中・高の部分には確かに掲示していないということがございますので、今後は掲示させていただいて、皆さんに見ていただいてイベントに来ていただくということで、掲示させていただきたいと考えております。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 8番 若原颯汰 議員

○8番（若原颯汰） 小項目1について質問します。

来場者をこれよりもっと増やすために、インスタやYouTubeなどでアカウントを作り、情報を広めることは考えていますか。ご答弁よろしく申し上げます。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） 町のほうで色々SNSというか、清水町の中にもホームページがございます。フェイスブックもございます。まあ、イベントということになると主に観光協会がイベントの中心になってやっている部分が多いんですが、観光協会も今年ホームページを整備したり、特に力を入れているところです。ホームページの他にフェイスブックだとかインスタグラムの方もやっておりますので、そこからアクセスしていただければ、その分も見れるかなという事でありまして。そして、9月10日だと思うんですけども、清水町のユーチューブチャンネルでうちゅんねるというユーチューブを開設しました。清水町のキャラクターのうちゅんがユーチューバーになって、いろんな清水のPRをしているということで、動画を発信しております。例えばアイスホッケーの関係だとか、渋沢栄一さん、清水町の開拓に関連した渋沢栄一さんの部分とかを流していますんで、その部分は皆さん是非登録して見て頂きたいなというふうに思いますし、清水町のそういう情報について色々コメント、フォローしていただきたいというふうに考えております。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 8番 若原颯汰 議員

○8番（若原颯汰） 小項目2について質問します。

イベントのPRと来場者について、幅広い広告を活用して、多くの方が来場され、車両のナンバーで確認しているとのことですが、町民、十勝管内、札幌市など、来場者の割合については、把握していますか。ご答弁よろしく申し上げます。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） 来場者の割合、車両のナンバーで確認しております。これについては十勝清水肉・井まつりのイベントで確認をしているところです。今年はコロナの関係で集まって開催は出来なかったんですけども、前回の去年の部分でしたら十勝管内が8割、札幌市が1割、その他については旭川だとか釧路のナンバーがありまして、道外については4%という事で確認をしております。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 8番 若原颯汰 議員

○8番（若原颯汰） 小項目2について質問します。

ほとんどが十勝管内の来場という状況ですが、管外の人に来てもらう為のPRは効果があったと考えていますか。ご答弁よろしく申し上げます。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） まつりにも色々あります。町内の方に来ていただける

祭りだとか、あと例えば肉・井まつりだとか若牛アスパラまつりだとか、にんにく肉まつりはどちらかという道内の人にも来ていただきたいなという事で、色々そのまつりによっても対象者というか、その部分が違ってくるということにはなりますが、例えば肉・井まつりについては、管外のPRとして観光情報誌に広告を載せたり、札幌圏内あるいは釧路圏内の駅にポスターを掲示したり、札幌駅の西口にデジタルサイネージにディスプレイの広告でスクロールする広告があるんですけども、それに載せたりしてPRを図っております。PRの効果は一定程度あるというふうに思っておりますが、まだまだ不十分というふうに思っておりますので、PRの方法も考えて出来るだけ多くの人、管外の人も含めて多くの人にイベントに集まってもらうように考えていきたいと思っております。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 9番 工藤奨摩 議員

○9番（工藤奨摩） 9番 工藤奨摩であります。

道の駅について、清水の現状に合った特色のある施設を調査、研究を進めるとのことですが、現時点で清水の特色としてどのようなことを考えていますか。ご答弁よろしくお願ひします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） 皆さんは清水というと色々な特産品があると思います。例えば牛玉ステーキ丼、牛とろ丼、そして豚丼、ブランド肉も色々有って、乳製品についてもヨーグルトやチーズなど。農産物についてもアスパラ、にんにくなど、全国や全道に誇れる強みのある、そういう物産というのは清水にはたくさんあるというふうに思っております。で、それは他の町には余りないことだなというふうにも思っているところです。これだけの誇れるものが有るのは、これは強みだと思っております。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 9番 工藤奨摩 議員

○9番（工藤奨摩） 現在清水にあるイベントは来場が1日限りであり、期間が限られています。しかし、道東の玄関口であるこの清水町に道の駅を設置し、それらの特色ある資源を活用したレストランを開設することで、お店の販売と合わせて、これらのPRが長い期間、アピール出来ると考えられるが、そのような効果があると思っておりますか。ご答弁よろしくお願ひします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） 大きなイベントが清水町には何個かあるのですが、1日限りのイベントというのは大変インパクトがあつて、それも町をPRする上では重要だというふうに思っております。が、例えば道の駅が出来たというふうに仮定して、道の駅が出来るといつでも清水町に来たら、ここに寄れば清水町のおいしいものとか、あるいはお土産だとか、あるいは清水町の景観だとかそういうのもすばらしいので、そういう情報だとか、あと清水町のそういう町の文化だとか、そういうのも含めて情報が分かるという部分の利点があります。で、やっぱり賑わいの場という交流の場が保てるというふうに思っておりますので、やはり道の駅はそういう効果があるかなというふうに思っております。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 9番 工藤奨摩 議員

○9番（工藤奨摩） 小項目の4番目について再質問をいたします。

我々はJA十勝清水を取材した際に、JAさんは新たなイベントを行う際に、今は



どのような清水の特産品に付加価値をつけるか自問自答を繰り返していると申し出ておりました。そこで道の駅でイベントを行う際に清水高校や清水中学校・御影中学校などの生徒を中心にイベントを考えてはどうでしょうか。現在、清水高校には生産技術系列の産業分野と食品分野があり、製造したものを道の駅で販売することで、清水高校の魅力を伝えることもでき、間口の維持も期待できます。このことについてはどうお考えでしょうか。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） そういうように、中学生、高校生の皆さんが町のそういうイベントを考える、自分たちで考えるという事は非常に良い事だと思います。先程町長のお話もあったように、清水高校さんについては今朝の新聞でパン甲子園で三連覇果たしたというお話も聞いております。例えば去年の肉・井まつりでは、清水高校の皆さんに協力していただいて、特別参加という事で牛とろ井という形で店を出していただいて、大変好評のうちに終わっているところでございます。そういうのも含めながら、道の駅というのはまだこれからなので、例えば今ある町のイベントに参加してもらうとか、そういうことも出来るかなというふうに思いますので、是非そういうことは挑戦していただきたいと、うちとしても協力していきたいというふうに思っております。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 9番 工藤奨摩 議員

○9番（工藤奨摩） 現在はインターネットの普及が行われており、現在のイベントだけではなく今後出来る道の駅でのイベントの際にはインスタグラムも活用し、写真をアップロードしたら割引等をするキャンペーンを行うことで、全国に清水の魅力を広め、利用者を増やすことができると考える。このことについてどうお考えでしょうか。答弁をお願いします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） 先程もちょっとお話ししましたが、SNSを使ってイベントの情報を発信するというのは、今とても大事な事であります。いろんなPRの方法がありますがけれども、非常に速く多くの人に拡散と言いますか、情報を共有できるという事はとても良いPRの方法だというふうに考えておりますので、やり方とか、そういうものはいろんな部分があると思います。他の町でも他のイベントでもそういうふうにやっているというところがあることも聞いておりますので、その辺を見ながら考えて行きたいというふうに思います。

◇・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・◇

○議長（櫻井崇裕） 次に、10番 齊藤皓大 議員

○10番（齊藤皓大） 10番 齊藤皓大です。私は、駅前の活性化について質問します。

近年、商店街の空き家が目立ち、商店街の活気が失われつつあると感じます。特にJR十勝清水駅周辺はにぎわっておらず、また、今回の新型コロナウイルスの影響により、こうした状況がますます加速しているのではないかと考えます。交流人口を増やし、商店街の経済を活性化させなければならないと感じます。新規経営者への援助や空き家の有効活用など対策を講じ、商店街を利用する人を増やしていく必要があります。そこで、次の項目について伺います。



小項目1、商店街の現状について町としてどう捉えているのか。また、商店街活性化のため、今までどのような対策をしてきたのか伺います。

2、商店街の空き家の有効活用について何か対策を考えているのか伺います。

3、現在、清水町は毎月19日を読書の日と定めていますが、清水町には本屋が少ないと感じます。児童への読書の関心を高めるため、本に触れる機会を増やすために、商店街には本屋が必要だと考えます。町としての考えを伺います。ご答弁よろしくお願ひします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 町長。

○町長（阿部一男） それでは商店街の活性化等について私の方から答弁をさせていただきます。

小項目1の商店街の現状と商店街活性化のための対策についてであります。商店主の高齢化や後継者がいないことによる廃業や、人口減少による消費の低迷、帯広市近郊等の大型店舗への消費の流出やインターネット販売の普及による売上減少など、商店街を取り巻く状況はさまざまな問題があります。加えて、新型コロナウイルス感染症の影響により飲食業や宿泊業などの売上げが落ち込むなど、さらに厳しい状況であると捉えております。

これまで、清水町の中心商店街のにぎわいを創出し、交流を図り、多目的に利用できる複合施設として、商工会館と多目的ホールを併設した複合施設ハーモニープラザの建設や本通などの歩道の整備等を行い、安心して買い物のできる環境づくりの取り組みを行ってきております。

商店街の活性化に対しては、町内の消費拡大を図るため、1万円で1万5千円の商品券が購入できるプレミアム商品券の発行や、毎月期間限定で各店舗のおすすめの商品をPRして販売するしみずマルシェの助成、中小企業が銀行などでお金を借りるときの利子などの補助や、店舗開店等の支援など各種事業に取り組んできています。

次に、小項目2の商店街の空き家の有効活用についての対策ですが、商店街の空き家の有効活用のための対策については、平成23年度から商工業活性化店舗開店支援事業を行っております。事業の概要は、市街地において新規開店や空き店舗、空き地を活用して開店をする者に対して、建物の取得改修費用や土地・建物に係る固定資産税相当額、従業員雇用などの経費の一部助成を行い、活力と魅力ある中心市街地の活性化を図ることを目的としてきております。

これまでに、新規飲食店2件、空き店舗を活用してラーメン屋さん、そば屋さん、焼き肉屋さん、喫茶店、パン屋など13件の開店があり、商業の振興や経済の活性化が図られていることから、引き続きこの事業は継続してまいりたいと考えています。

次に、小項目3の商店街に本屋が必要との考えについてでありますけれども、全国的に書店は減少傾向にあり、書店の新規開店は需要を考えると経営的に難しい状況にあると考えています。清水町内には現在書店が1件あり、店頭にない本については、取り寄せてくれるサービスを行っております。

清水町図書館の取り組みとしても、新刊を図書館ホームページに掲載したり、読みたい本が本町図書館にない場合には、他市町村の図書館から取り寄せるサービスを行っております。また、市街地の金融機関や幼稚園、保育所などに移動文庫を設置し読書普及活動も行っております。

今後、新たにハーモニープラザの休憩施設を有効活用した移動文庫の設置について

も、図書館や商工会と協議をして進めていければと考えているところです。以上、答弁といたします。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 12番 根本怜汰 議員

○12番（根本怜汰） 12番 根本怜汰です。

商店街の賑わいや安心して買い物が出来る環境作りとして、ハーモニープラザや本通りの歩道の整備などを行ってきたとのことですが、実際にどのような効果がありましたか。よろしくお願いします。



○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） ハーモニープラザについては平成14年に、駅の横、スーパーとの間に建てております。商工会館と多目的ホールを合わせた複合施設という事で建設されているところです。多目的ホールという事で、各種講演会や企業の研修会、あるいは商店街のイベント、あるいは商店街の販売促進活動や多目的に利用できる施設という事で、更に住民や団体活動の拠点として、そういう部分の使用が出来るということで、集客を図り商店街の活性化、中心市街地の活性化に繋がっているというふうに考えております。また、歩道の関係なんですけど、歩道の整備については平成10年から本通りと、銀座通りと言いまして、本通り2丁目から3丁目の本通から274号線にかけて、街路整備事業を行っているところです。歩道の幅を本通りの部分は広くして、美蔓産の粘土を利用したレンガを歩道に敷いて、歩きやすい部分も含めて歩道の歪みを平らにして、あるいは清水町に相応しい景観として街路灯も音楽の町に相応しいデザイン、青銅風の塗装をして、電柱もブラウンのハイポールという事で、整備したところです。デザインアップという事で、やはり商店街の顔という事でございますので、自然との調和を図って、中心街の景観アップに繋がっているというふうに考えております。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 12番 根本怜汰 議員

○12番（根本怜汰） 店頭がない本については取り寄せてくれるサービスとありますが、実際にどのように町民にそれを知らせていますか。お願いします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） 店頭がない本についてはですね、清水の方で書店が1店ございますけど、書店の方でそういう店頭がない本をお話をすれば取り寄せてくれるというお話を聞いておりますが、具体的にその部分のPRはしていないということです。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 11番 神谷翼 議員

○11番（神谷翼） 11番 神谷翼です。小項目1について質問します。

以前商工会の皆様とヒアリングを行った際、商工会の目標は交流人口を増やす事と商圈人口を増やす事でした。商工会から頂いたデータによると昭和31年の店舗数は250店でしたが、現在は86店と減少傾向にありました。交流人口と商圈人口を増やすためには駅前での活性化が必須だと商工会の皆様も考えていました。



商店街の活性化について、プレミアム商品券の発行、しみずマルシェへの助成、店舗開店の為の支援を行ってきたとのことですが、それらの具体的な効果についてはど

んなことがありましたか。ご答弁よろしくをお願いします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 商工観光課長。

○商工観光課長（高橋英二） プレミアム商品券については先程答弁したとおり、今回5月に50%という事で、1万5千円の買い物を1万円で出来るというプレミアム商品券を発行しています。で、10月にも30%というプレミアムの商品券を発行する予定です。プレミアム商品券については、まず商店の売り上げがこれによってかなり伸びるといふこともありますし、消費者の方にすごくお得感があって買い物が出来るということもございます。全体、町内の消費喚起に繋がるということがございますし、これはあくまでも町内の商店で行っているんで、町内のお店で物を買ってもらおうと、そういう愛町購買運動に繋がっているという事になります。

清水マルシェについては新聞の折り込みチラシ等で、月1回期間限定で共同でいろんなお店の部分が載っていると思うんですが、そこで期間限定でいろんな売出しをしているということ、皆さんが余り普段知らないようなお店とか、この店はこんな事をやっているんだ、こんなものを売っているんだとか、そういうことも分かるという部分もあるし、共同でまとめてお店の売出しをしているということ、いろんなメリットが生じるというふうに考えております。

店舗開店のための支援ですが、やはり今、先程今お話がありましたように、商店の数も減っているという事で、お店が虫食い状態になるというか、シャッターが閉めてしまって寂しい状態になるというのは、非常に商店街にとってはかなり影響があるということで、出来るだけその空き店舗を活用していただきたいという事で、町として空き店舗を使って新たに事業を起こす方、お店を開店する方について助成をしているところです。助成によって商店街の活性化に繋がっているというふうに考えております。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 11番 神谷翼 議員

○11番（神谷翼） 小項目3について質問します。

商店街に書店の新規開店は需要が少なく経営的に難しいとのことですが、私たち高校生や中学生が受験や勉強の為に使う参考書などの購入が必要です。そこで、駅前旅館跡を解体し複合施設を建設し、その中に書店も併設することで、駅を利用する高校生の利用も利便性が高く有効だと思うのですが、駅前の再整備を含めて進める考えはありませんか。ご答弁よろしくをお願いします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（前田真） 企画課長の前田です。複合施設ということなので、私色々な機能を持っているという事でまとめて答弁させていただきたいと思います。

まず1点、複合施設っていうアイディアは非常に素晴らしいアイディアだと思います。公共施設っていうのは従来、例えばこれは高齢者用の施設だったり、これはスポーツに限った施設だったり、図書館だったりという具合に、目的が限定されていた施設が多いというのは神谷議員がおっしゃるとおりだと思います。で、これからの時代は人口も減ってきているし、時代に合わせて様々な機能を持った複合的な施設にしていくということは、私も賛成でございます。

駅前の再開発のお話がありましたが、駅舎も先程指摘のあった旅館跡も役場の所有物ではないんです。役場の所有物ではないので、権利的なことだったり金銭的なことだったり、所有者との交渉が必要となってきますが、今お話があったように、例えば

図書購入できるような仕組みだったり、あるいはレンタルできるような仕組みがあったり、あるいは電車の待ち時間に勉強できる場所があったり、更に例えばお友達だったり、そこに来る町民とコーヒーを飲んだり、コミュニケーションをとったり、そういった様々な機能というのがあると、通学をする皆さんにも利便性が高まるんじゃないのかなという事を、今お話を聞いていて感じた次第です。

頂いたアイデアをですね、是非駅前の再整備に活かしてまいりたいと思います。

○議長（櫻井崇裕） 質問を受けます。 11番 神谷翼 議員

○11番（神谷翼） 旅館跡が役場の物ではなく、民間の物という事でできないという事ですけども、駅前の旅館を町で買い取って開発するという考えもあると思うんですけども、そこら辺はどう考えているのか、ご答弁をお願いします。

○議長（櫻井崇裕） 答弁を求めます。 企画課長。

○企画課長（前田真） お答えいたします。

おっしゃるとおり、駅前今旅館が廃業になっているというのはご存知だと思います。あれをあのまま、将来にわたってあのままにしておくということは、役場としても考えていなくて、これから地権者の方だったり、そういった方と色々なお話をしていかなきゃいけないのですが、皆さんの使い勝手のいい機能性の高い施設にしていきたいと考えているところでございます

○議長（櫻井崇裕） これで一般質問を終わります。

<閉 議>

○議長（櫻井崇裕） これをもって、模擬議会は全て終了しましたので、会議を閉じます。

<副議長挨拶>

○議長（櫻井崇裕） 副議長より、閉会にあたり挨拶があります。副議長。

○副議長（高橋政悦） 皆さんお疲れ様でした。

大変緊張されたと思います。私も三期目ですけども、毎回毎回議会の時は緊張しております。

皆さんにとっては最初、政治って良くわからないから始まって、進めていくうちにこんな感じで進むんだなって理解していただけたと思います。

全国の高校生約350万人の中で、今日のような経験をされた方は、もしかしたら皆さんだけかもしれないし、きっと探しても数パーセントだと思います。皆さんにはこの経験を糧に、政治への興味を膨らませていって頂ければと思います。

今回の模擬議会は我々議員も初めての企画で、多少の不安はありましたが、皆さんの若者らしい視点の一般質問から、清水町の明るい未来も感じ取る事が出来ました。

皆さんがこの後直接的に政治に関わる、まず第一回目というのが、通常であれば、通常と言いますのは衆議院議員が解散総選挙をしない限り、来年2月の清水町長選挙が最初に関わる政治だと思います。是非皆さんの一票をもって政治に積極的に関わっていただきたいと思います。

最後に、企画段階から本日まで細部にわたりご協力くださった校長先生はじめ諸先生方におかれましては、大変ありがとうございました。今回にとどまらず第2回、第3回と継続できる事を願ひまして、終わりの挨拶とさせていただきます。

本日はお疲れ様でした。

<講 評>

○議長（櫻井崇裕） 町長並びに教育長より、本日の会議について講評を頂きます。町長。

○町長（阿部一男） 議員の皆さん、お疲れ様でした。沢山の良い意見、ありがとうございました。本当に、今ちょっとほっとしているんでないかと思います。ホッケーやった後の疲れと、あるいは野球やった後の疲れとまた違った疲れが出たんでないかなと思いますけれども、本当に皆さんから貴重な意見を頂きありがとうございました。

大きく4つの点について意見や提案をいただきまして、基本的な考えについては先程答弁、あるいは議論の中でお話ししたとおりでございますけれども、私からこの4項目について、私が答弁しなかった事も含めて本当に簡単にちょっとお話をさせて、私なりのお話をさせていただきたいなというふうに思います。

若者が集まる町の大きな項目の1、そのスケートボードのことについてですけれども、議論の中でもありましたように、皆さん方の盛り上がりも大事なところかなと、部活であったり、それから同好会であったりというような話も出ましたけれども、本当にそんな中で一緒にタイミングを見ながら、さすがに今すぐやれと言っても無理なんだけれども、皆さん方の後輩に色々と伝えてもらいながら、そんなことも含めて、もしそういうふうなスケートボードの町としてなっていくのであれば、それはそれで立派な方向性でないかなと思いますのでね。ただ、本当にこれは色々な角度から検討しなきゃならないですけれども、真面目に、真面目にと言ったら不真面目ではなくて、真面目にしっかりと皆さんの意見を聞いた中で、色々と調査を研究を進めてまいりたいと思いますので、その辺についてよろしくお願ひしたいと思います。

それから、2番目の子育て支援については、丁度いろんな意見も頂きました。自分としては子育てしやすい北海道一の町だとか、環境づくりだとか、そういった事で普段発言した事がありますけれども、最も力を入れている分野でありますけれども、そんな中で皆さんからいただいたもの、何が今本当に必要なのか、そんなことも考えながらタイムリーなものを選んでいけるように、選んであるいはそういう方向性に作っていけるようにしたいと思いますし、先程も出たようにね、複合施設の中にそういう部分を設けるだとか、駅前だね。そんな方法もあるのかなと思って、感じていたところであります。

それから3項目目の道の駅の部分についてでありますけれども、承知のように清水町は国道の274号と38号が交差する町で、二本も国道が通っているという事は、そう十勝管内でもないと思います。そんな中で特にこの辺の38号もそれから274号も、結構清水町はおいしいものがあるということで、ドライブインがすごく流行っていますね。多分この辺の近辺であるのは、昔は日高のところですごく流行っている道の駅ありましたけれども、今高速道路が出来た関係で色々あるんですけれども、そんな中でこの38号線沿いというのは凄く、多分一番流行っているような状況があるのかなと、ドライブインとしてはね。そんなのがあるので、そういうところも含めて今までの良さもしっかりと活用した中で、高速のインターもありますし、それから清水公園のエリアもありますし、それから御影のエリアも含めて、道の駅の部分については、民間活用も先程出ましたように、ノウハウを活用した中で構想をこれから進

めていければなど、そんな思いを持っておりますので、その辺よろしくお願ひしたいなと思ひます。

それから最後の4点目、駅前活性化についてであります。清水の町中、駅前、本通、本当に寂しいですね。廃墟のところもちょっとあつたりして、何とかしたいといつも考へているところでございます。ただ、人口減少のこういう中、中々厳しいところがありますけれども、経済や居住も含めてコンパクトな町づくりがこれから基本だと思います。あまり外に外に拡大しないで、ずうっとこう縮まってきて、高齢者の人は中々車も乗れないような時代になってきますので、やっぱり駅前にこう集まってくる、町の中心に集まってくる、そういう町づくりが基本だと思います。例えば今言つたような交通だとか、医療だとか、それから福祉だとか、それから今も言つたように住宅、居住も含めてそういった将来構想についてはしっかりと立てていかなければならないかなど、そんな思いを持って、今日皆さんと一緒に議論に参加をしていただくところでございます。

今日の模擬議会、そして去年から高校生にも一部ちょっと参加していただいたけれども、去年の2月か3月ですね。鈴木るりかさんが来たときに、若者ミライ会議というのをやっています。それから町内の幅広い年代層から18歳から79歳までの51人にミライ自分ごと化会議という事で、提案者になっていただいて、5分野についての新しい町づくりについての提案も頂きました。その時に、例えばアイスホッケーの強みをもっともっと發揮しなさいだとか、例えばそういう意見を頂いたりだとか、いろんなことの参考になる意見も頂きました。それから先日は役場の若手職員18人の中でワーキングチームというのを作って、そこから3点の提案を頂いたところであります。どれも斬新な若者らしい意見でありましたし、それから先程言いましたミライ会議の自分ごと化会議の中では、高齢者の意見も十分入っておりますけれども、そんな事も提案しながら、今後また10月下旬から11月中旬にかけて町づくり懇談会というのを各地域でやります。それからいろんなPTAの集まりだとか、それから商工会の人だとか、農業関係の人だとかそういう人達、その団体の人達ともまたいろんな懇談会を設けて、いろんな意見をみなさんから頂いた中で、丁度来年から始まる第6期総合計画の10年計画というのが来年から始めて、もう少しでまとめて行かなければならないという時期なので、丁度いいタイミングで皆さんからいろんな提案を頂いた事、決して無駄にしないで参考にしていきたいなというふうに思うところであります。

それから、講評はこれぐらいとして一つだけあと1~2分、皆さんにちょっとお願いと言ひますか、そういうのがあります。

聴き慣れない言葉だと思いますけれども、シルバー民主主義という言葉があります。民主主義だから凄くあれなのかな、いい言葉なのかなと思つたり、あるいはよく考へてみると、あれっ必ずしもちょっと困つたようなあれだなと。まだそんなにみんながこう、これでわあわあとなっているような状況でもないんですけど、そういうような言葉がありますけれども、先程高橋副議長の挨拶の中でも350万人の高校3年生がいて、皆さんその中のほんのちょっとだよと色々ありましたけど、実は若者の皆さん方のちょっと先輩の、例えば20歳から29歳までの人達の清水の今の人口は732人しか居ないんです。けれども、それから40~50歳上の段階の65歳から74歳までは1,550人の人口が清水町の中に今現に居るんですね。その人達の、

先程選挙の話もちよっと出ましたけれども、これだけでも高齢者の数は2.1倍、同じ10年の中で2.1倍の人口がおります。ですけれども、更にちょっとあれだなど思うことは、41%の例えば直近の参議院選というのがあったんですけど、その清水の状況を調べるとこの20～29歳の若者の投票率は41%、4割しか選挙に行っていないということなんです。高齢者のこの辺のたまたま一番こう、年代層が多くて更にこの人方は一番投票率も高くて、76.4%なんです。これを倍率にするとさっきは2.1倍の人しか居ないのに、3.9倍になるんです。だから選挙に行かないと自分の意見は中々反映できないという場面があります。これが2040年、これから20年後、人口推計の中で色々と見てみますと、この数字をそのまま使ってやると、若者の数は20～29歳は473人に減り、高齢者の65～74歳というのは1,064人になり、あくまでも推計ですよ。2.3倍にまた広がってしまう。更に投票率をかけると、もっともっと先程3.9倍と言ったけれど4.2倍になっちゃう。だから、しっかりと皆さんは、これからも高橋副議長が言ったように、こういうところに関心を持って、いろんなところで参加をしていただければというふうに思います。それでも考えはぐっと縮こまってくるのに、こういうところでまた差がつけられたら大変だと思いますので、情熱を持ってこれからも意見をぶつけて欲しいなと思うところをごさいます、このことを後輩にもしっかりと伝えていただければいいかなというふうに思うところをごさいます。

とにかく今日、いろんな意見を頂きました事、本当に重く受け止めて、これからの町づくりのしっかりと参考にしたいと思えますし、また、こういう機会があれば、高校生の皆さんと、模擬議会だったりいろんなところを通じて議論をしましょう。また、こういうことを企画しましょうということをお願いさせていただいて、私からの講評にさせていただきたいと思えます。

今日は本当にお疲れ様でした。ありがとうございます。

○議長（櫻井崇裕） 次に、教育長お願いします。

○教育長（三澤吏佐子） 皆様お疲れ様でございました。若い皆様のフレッシュで、忌憚のない提案を頂いて、私自身も背筋がぴんと伸びる、そんな思いがいたしました。

皆さんは今まで学校の授業の中で、社会科の公民等できっと国民の主権が皆様自身にあること。それから国会のこと。地方議会のこと。更には選挙の仕組みなどについても机の上で学んできたことだと思います。でもそれは、遠くのことです。現実的には自分たちのそばに無い様な思いもしてきたのではないのでしょうか。そういう中で今回は皆さんが通っている清水高校の地元である清水町議会で、この議場で議員として質問をしてくださいました。意見を述べてくださいました。そのために沢山のことを研究したり、調べたり、論点をまとめたりして下さったと思います。そういう中で、議会というものが凄く身近になったのではないかなというふうに思います。

先程来、町長さんもおっしゃいましたけれども、皆さんの若い意見を大切にしながら、私どもも更に議会の皆様、議員の皆様と協力をしながら、そして高校生の皆さんの力もいただきながら、みんなで町づくりをすすめて行きたいと思っておりますので、どうか、力を貸していただきたいというふうに思います。そして小学校や中学校の子どもたちとも、是非交流をして頂きながら、今まで以上に交流をして頂きながら、先輩としてリードをしていただきたいなというふうに思います。本日は大変お疲れ様でありました。そして、ありがとうございます。

<生徒代表挨拶>

○議長（櫻井崇裕） 本日出席の12名の生徒を代表して、齊藤皓大君より、挨拶を頂きます。演壇にお進みください。

○生徒代表（齊藤皓大） 本日は私たちのために、このような貴重な場を設けてくださり、ありがとうございました。

今回の模擬議会を通して清水町の実態や現状、そして今後の課題など沢山のことを学ぶことができました。そして今回の貴重な体験を今後の財産とし、これからは活かしていきたいと思えます。

本日は本当にありがとうございました。

<閉会>

○議長（櫻井崇裕） 以上をもって、模擬議会を閉会します。

<修礼>

○事務局長（田本尚彦） ご起立願います。礼。

清水町議会会議規則第 126 条の規定
により署名する。

清水町議会議長

櫻井崇裕

署名議員

鈴木良明

署名議員

若原颯汰

署名議員

神谷翼

資 料

開催までの経緯

年 月 日	項 目	内 容
H 28. 6. 21	議会活性化特別委員会	議会の活性化について、調査・検討に着手。
H 30.12. 4	議会活性化特別委員会	調査報告をまとめ議会に提出。町民の声を聴取する場として模擬議会開催を提言。
H 30.12. 5	清水高校との協議	特別委員会調査報告を受けて、模擬議会の開催について高校を訪問し説明。
R 1. 5. 9	清水高校との協議	議員選挙、議会事務局職員異動を経て、改めて模擬議会の開催について高校と協議。
R 2. 4. 20	清水高校との協議	高校において、地域課題研究で町議会見学等を検討しているとの情報提供を受け、高校校長、教頭の異動もあり、改めて模擬議会の開催について高校と協議。高校側の計画案に基づき、10月6日の模擬議会開催を予定し、取り組みを進めることを確認。
R 2. 7. 9	町執行側への協議経過説明	清水高校と調整中の模擬議会開催について、執行側の出席と一般質問答弁の対応について副町長、総務課長に対し事務局長、次長が協議経過説明。
R 2. 7. 21	清水高校との協議	6月定例議会において正副議長が交代した事を受け、改めて模擬議会の開催について高校と協議。開催までの準備日程、当日の進行予定等について確認。
R 2. 7. 27	町執行側への協力要請	正副議長、議会運営委員長が、町長、副町長、総務課長に対して模擬議会開催について協力を要請。模擬議会実施までのスケジュール、10月6日当日の進行予定を説明。
R 2. 8. 18	模擬議会事前学習	清水高校の授業において、模擬議会に向けた事前学習を開催。議長、議会運営委員会5名の議員と事務局職員3名が参加。議会の仕組みや議事公開の原則などを学習。一般質問の仕方などについて議員からアドバイスを受けた。
R 2. 8. 27	清水高校との協議	清水高校小林教諭と議会事務局の間で、模擬議会実施までのスケジュール確認等を行った。
R 2. 9. 14	清水高校生議会傍聴	第6回9月定例議会の一般質問を清水高校生が傍聴。
R 2. 9. 16	町執行側に対し模擬議会一般質問通告	9月15日までに高校生が取りまとめた一般質問について、櫻井議長から阿部町長に対し質問を通告、模擬議会開催の協力を要請。
R 2. 9. 28	答弁要旨提出	町執行側より議会事務局に対し答弁要旨提出。同日清水高校小林教諭宛て送付。

R 2. 9. 29	模擬議会事前学習	清水高校の授業において、模擬議会のリハーサルを開催。議員全 13 名と事務局職員 2 名が参加。当日の進行を確認。生徒たちは議員のアドバイスを受けながら、答弁要旨をもとに再質問の内容を検討。
R 2.10. 6	模擬議会開催	清水町議会本会議場において、櫻井議長の議事進行により模擬議会を開催。4 項目の一般質問・答弁を行う。

模擬議会議席表

【傍聴席】 深沼達生 川上 均 山下清美 中河つる子 佐藤幸一 西山輝和 加来良明

中島里司		口田邦男		鈴木孝寿		奥秋康子		高橋政悦
	1 番 五十嵐唯翔 いがらし ゆいと		4 番 大山凌芽 おおやま りょうが	7 番 沼田 陸 ぬまた りく		10 番 齊藤皓大 さいとう こうだい		
2 番 小野翔生弥 おの とおや	3 番 鈴木良明 すずき りょうめい	5 番 久保瑩晶瑛 くぼの しょうえい	6 番 茶木優汰 ちやき ゆうた	8 番 若原颯汰 わかばら そうた	9 番 工藤奨摩 くどう しょうま	11 番 神谷 翼 かみや つばさ	12 番 根本怜汰 ねもと れんた	

質問台

御影支所長	社会教育課参事	社会教育課長	学校教育課長	教 育 長
石津博徳	佐々木 亘	藤田哲也	大尾 智	三澤吏佐子

町 長	副 町 長			
阿部一男	山本 司			

農林課参事	農林課長	子育て支援課長	保健福祉課長	町民生活課長
水野秀明	寺岡治彦	逢坂 登	佐藤秀美	齊木良博

総務課長	総務課参事	企画課長	農業委員会局長	税務課長
神谷昌彦	鈴木一聡	前田 真	渡邊義春	小岩哲治

	水道課長	建設課長	商工観光課長
	小林 進	内澤 悟	高橋英二

演 壇

説明用控	総務課参事	総務課参事	会計管理者
	竹中直也	夫谷一武	青木光春

--	--	--	--

事務局	事務局
宇都宮 学	鍋田瑞恵

議 長	事務局長
櫻井崇裕	田本尚彦

十勝毎日新聞 令和2年10月8日

若者視点議場で提案

清水高生

【清水】清水高校（吉村教賢校長）の3年生12人が6日、町議会（桜井崇裕議長）の議場で「模擬議会」に臨んだ。生徒は町政課題やその解決に向けた提案について、一般質問の形式で阿部一男町長ら執行側にぶつけた。



イベントPR 学校に掲示を

総合的な学習の「地域探究」の一環。町議会としては議会への関心を高めてもらうために模擬議会開催を目指してきており、今回が初めての実施となった。

生徒はこれまでに役場や商工会、農協を訪問して地域課題についてヒアリングし、政策提案に向けて調査。町議のアドバイスも受けながら質問を練ってきた。この日は4グループに分かれ、「若者が集まる町」「子育て世帯が喜ぶ町」「町をPRするイベント」「駅前活性化」をテーマにそれぞれ質問した。

各種イベントのPR方法
町政課題について質問する生徒（中央）

について聞かれ、ポスター掲示やSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）などを挙げた阿部町長に対し、若原颯汰さんは「私たちはポスターを見たことがない。小中高校で掲示しては」と追及。「今後は学校に掲示させてもらう」との担当者の答弁を引き出した。

その他にも生徒たちは、他地域の事例も紹介しながら、スケートボード施設や屋内遊技場の整備、駅前再整備に合わせた書店の充実などさまざまな提案を投げ掛けた。阿部町長は「来年度からの総合計画をまとめる時期に入っている。いいタイミングでいただいた貴重な意見を無駄にせず参考にする」と述べた。

鈴木良明さんは「初めての体験で圧迫感を感じたが、自分たちで考えた質問をきちんと言えてよかった」と振り返った。高橋政悦副議長は「この経験を糧に、政治への興味を膨らませてもらいたい」と期待した。

（丹羽恭太）

清水町議会清水高校生模擬議会会議録

令和2年11月

清水町議会事務局

北海道上川郡清水町南4条2丁目2番地4

TEL 0156-62-3317